

令和3年度 補助金
(難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業))
小児慢性特定疾病児童等自立支援事業の発展に資する研究

自立支援事業と移行期医療支援 センターとの連携について

愛媛県立中央病院
小児医療センター
石田也寸志

日時：令和4年2月13日(日)
場所：Zoom Web会議



移行期医療支援

小児期医療の進歩により多くの命が救われてきたが、原疾患自体や合併症が持続しながら思春期・成人期を迎える患者も多くなってきている。こうした患者に対して、小児期医療も成人期医療も、現状では必ずしも適切な医療を提供できていない。

移行期医療とは患者が思春期から成人期に移行するにあたり、継続的で良質、かつ発達に即した医療サービスを提供することを通して、特別な医療ニーズを持つ子どもたちが生涯にわたり持てる機能と潜在能力を最大限に発揮することを目的としたものである。

1. 自己決定の尊重
2. 年齢とともに変化する病態や合併症への対応
3. 人格の成熟課程に基づいた年齢相応の医療

社会性の獲得・自立と密接に関連

第123回日本小児科学会学術集会

第124回日本小児科学会学術集会

市民公開講座&
若者クラシック
ミニコンサート

子どもから創めよう
新時代



会場 国立京都国際会館

会頭 細井 創 (京都府立医科大学大学院医学研究科小児科学 教授)

総合シンポジウム5

これからの成人移行支援

4月17日 (土) 16:20~18:20 第9会場 (国立京都国際会館 1階 アネックスホール2)

- 座長： 掛江 直子 (国立研究開発法人国立成育医療研究センター)
窪田 満 (国立成育医療研究センター総合診療部)
- 演者： 平田 陽一郎 (北里大学医学部小児科)
石田 也寸志 (愛媛県立中央病院小児医療センター)
宮前 多佳子 (東京女子医大膠原病リウマチ痛風センター小児リウマチ科)
石崎 優子 (関西医科大学小児科学)
杉山 由加里 (社会医療法人宏潤会だいでうクリニック在宅診療部)

特別企画4

周産期・小児期発症疾患の遠隔期の諸問題

4月17日 (土) 9:00~11:00 第2会場 (国立京都国際会館 2階 RoomA)

- 座長： 石田 也寸志 (愛媛県立中央病院小児医療センター)
与田 仁志 (東邦大学医学部新生児学講座)
- 演者： 森岡 一朗 (日本大学小児科学)
長谷川 久弥 (東京女子医科大学東医療センター新生児科)
有馬 勇一郎 (熊本大学循環器内科/熊本大学国際先端医学研究機構)
位田 忍 (大阪母子医療センター臨床検査科)
清谷 知賀子 (国立成育医療研究センター小児がんセンター)

第123回日本小児科学会学術集会

こども家庭庁の3つの部門

NHK

企画立案・総合調整部門

成育部門

支援部門

研修会開催

小児期発症慢性疾患をもつ患者のための

移行支援・自立支援情報共有サイト

事業概要

移行支援とは

自立支援とは

移行期医療支援センターマップ



Health Care Transition

子どもたちが 成長・発達にあわせて
つねに適切な医療を受けられるように
自分の健康を自分で守っていきけるように
ひとりひとりに必要な移行支援を目指して…

お知らせ

一覧▼

- 2022.02.02 ▼ 2月13日（日）に令和3年度厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業の発展に資する研究」成果報告会が開催されます。
- 2021.10.20 ▼ 第10回自立支援員研修会を10月27日（水）、11月4日（木）の2日間で開催いたします。
- 2021.10.20 Webサイトをリニューアルしました

更新情報

一覧▼

- 2021.10.20 Webサイトをリニューアルしました

コアガイド(85ページ)



移行支援ガイド

「移行」とは、小児を中心とした医療から成人を対象とする医療に切り替えていくプロセス（過程）をいい、「移行期」とは移行をおこなっている期間をいいます。移行期における医療ならびにその関連支援を「移行期医療支援」といい、「ケア」とは、医療およびその関連支援を含みます。

小児患者がその成長に伴い、自らの健康情報や健康管理スキルを身に付け、成人期医療に対する心構えを習得し、ケアを中断することなく新しい医療提供者との関係を構築するための系統化された移行支援プロセスをまとめたものとして、

- 小児期発症慢性疾患を持つ患者のための成人移行支援コアガイド (ver1.0)
- 小児期発症慢性疾患を持つ患者のための成人移行支援コアガイド (ver1.1)

があります。本書（案）は、特に成人期以降も医療支援が必要な慢性疾患患者の移行期医療支援に役立てるため、平成27年度からの小児慢性特定疾病児童成人移行期医療支援モデル事業での経験や、先進的な医療機関での実際の取り組みを重視してとりまとめたものです。

また、移行期支援プログラムの有効性については、「Got Transition®」に詳細に述べられています。

(<http://www.gottransition.org/>)、中でも「Six Core Elements of Health Care Transition 2.0」には、小児医療と成人医療の双方に向けたプログラムが具体的に記載されており、米国ではこれをもとに、小児医療、成人医療側とも系統的に移行ができるようになったと報告されています。

以下のページにて、日本語版の概要、ならびに詳細の試訳をご覧ください。

- [6core elements](#)

成人移行支援 コアガイド (ver1.1)

Health Care Transition

疾患別ガイド

腎疾
- IgA

先天性
(総排泄器)
における
分類

成人
小児
移行

思春期

生まれてから成人期まで
生涯にわたって
医療の記録を残せませす

緊急時に備える

病気の管理と緊急時に備えて

2015年7月15日発行

しんぞう手帳

日常的に管理する

主な内容
病名、かかりつけ医療機関名
本人の状況
初診時診察記録
検査・治療履歴
入院記録
幼児用心臓病管理指導表
学校生活管理指導表(小学生用)
学校生活管理指導表(中学・高校生用)
予防接種の記録
保育園・学校との連絡事項
診察記録
常用薬
災害にそなえる
受給者番号控え、メモ
緊急連絡先

この手帳の画期的な点は、医療を提供する側ではなく医療を受ける心臓病を持つ子どもたちとその親の視点から、本当に必要な日常生活や医療面での継続的な記録ができるようにまとめている点です。
心臓病をもつ子供たちにとっては、自分の病気を知った上で生涯にわたって心臓病とともに生きるための情報の整理になり、医療者にとっては、その子がどんな治療や経験をしてきたかを知る貴重な情報源にもなる素晴らしい手帳だと思います。

生まれつきの心臓病の患者さんの多くは、心臓手術後も定期的な経過観察が必要で、「しんぞう手帳」は、患者さん一人一人の生まれてからの心臓の状態、治療、経過などを記録でき、医療情報が正確に記載できます。病院受診時、病気の急変時などに、担当する医療者が、正確に患者さんの情報を把握し、的確に治療するために役立ちます。先天性心臓病の方が、携帯するべき手帳として、「しんぞう手帳」を推薦いたします。

日本小児循環器学会理事長 安河内聡
日本成人先天性心疾患学会理事長 丹羽公一郎



一般社団法人
日本成人先天性心疾患学会
Japanese Society for Adult Congenital Heart Disease

HOME

学会について

- 学会のご案内・沿革
- 成人先天性心疾患とは
- 役員・委員会
- 倫理委員会
- 循環器内科ネットワーク
- 定款・諸規則
- 理事会議事録
- 理事・評議員立候補
- 利益相反（COIについて）
- Young Investigator Award
- 総会・学術集会、セミナー
- 総会・学術集会

HOME > 疾患について > 疾患について



疾患について

成人先天性心疾患にまつわる諸問題

- [成人期先天性心疾患の問題点](#)
- [移行期医療 — 小児期から成人期への円滑な橋渡し — 先天性心疾患](#)
- [成人先天性心疾患に関する学会の動向と診療体制](#)
- [術後遠隔期の問題点 — 遺残症、続発症と後期合併症 — とは何か](#)
- [成人チアノーゼ性心疾患患者の問題点と管理](#)
- [フォロー四徴症修復術後長期遠隔期成績](#)

日本小児内分泌学会

移行期医療支援ガイド

子どもの内分泌疾患 診断基準など

日本人小児の体格の評価

成長評価用チャート・体格指数計算フ ァイル ダウンロードサイト

学会の見解など

- 「身長を伸ばす効果がある」と宣伝されてるサプリメント等に関する学会の見解 (2013年3月29日公表)
- 成長ホルモンの適正使用に関する見解 (2007年2月10日公表、2011年4月1日改訂)
- 新しい成長曲線について (2016年11月11日公表)
- バークロレイト放出試験について (2018年12月28日公表)

学会ガイドライン

- 学会ガイドライン
- 診療ガイドライン策定手順【pdf】
- 移行期医療支援ガイド

小児期発症の内分泌疾患のほとんどは、疾患を持ったまま思春期を過ごし成人期を迎えます。精神的にも肉体的にも発達途上にある時期に、医療管理の主体を養育者から自己に移し、小児医療から成人医療へと異なった医療体系へ変わります。このハードルを越えるのは必ずしも容易ではありません。私たち医療者は発達段階を考慮しながら患者に常に最も適切な医療を提供し、その疾患とともにある患者がより高い質の生活ができ、生きる力を育むように支援する必要があります。

そこで日本小児内分泌学会移行期対応委員会では、今回移行期医療の提言を作成しました。ぜひ活用いただき、小児内分泌における治療がより良いものになることを願っています。なお、日本小児内分泌学会は日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本糖尿病協会とともに移行期医療を推進することを移行ポリシーとして掲げています。

一般社団法人日本小児内分泌学会
移行期対応委員長 位田 忍

総論

● 小児期発症内分泌疾患の成人への移行期医療に関する提言

PDFファイル

● 図2：診断後、成人期までの自立支援を中心とする診療ロードマップ（医師）

PDFファイル

● 図3：チェックリスト（内分泌代謝科）

EXCELファイル

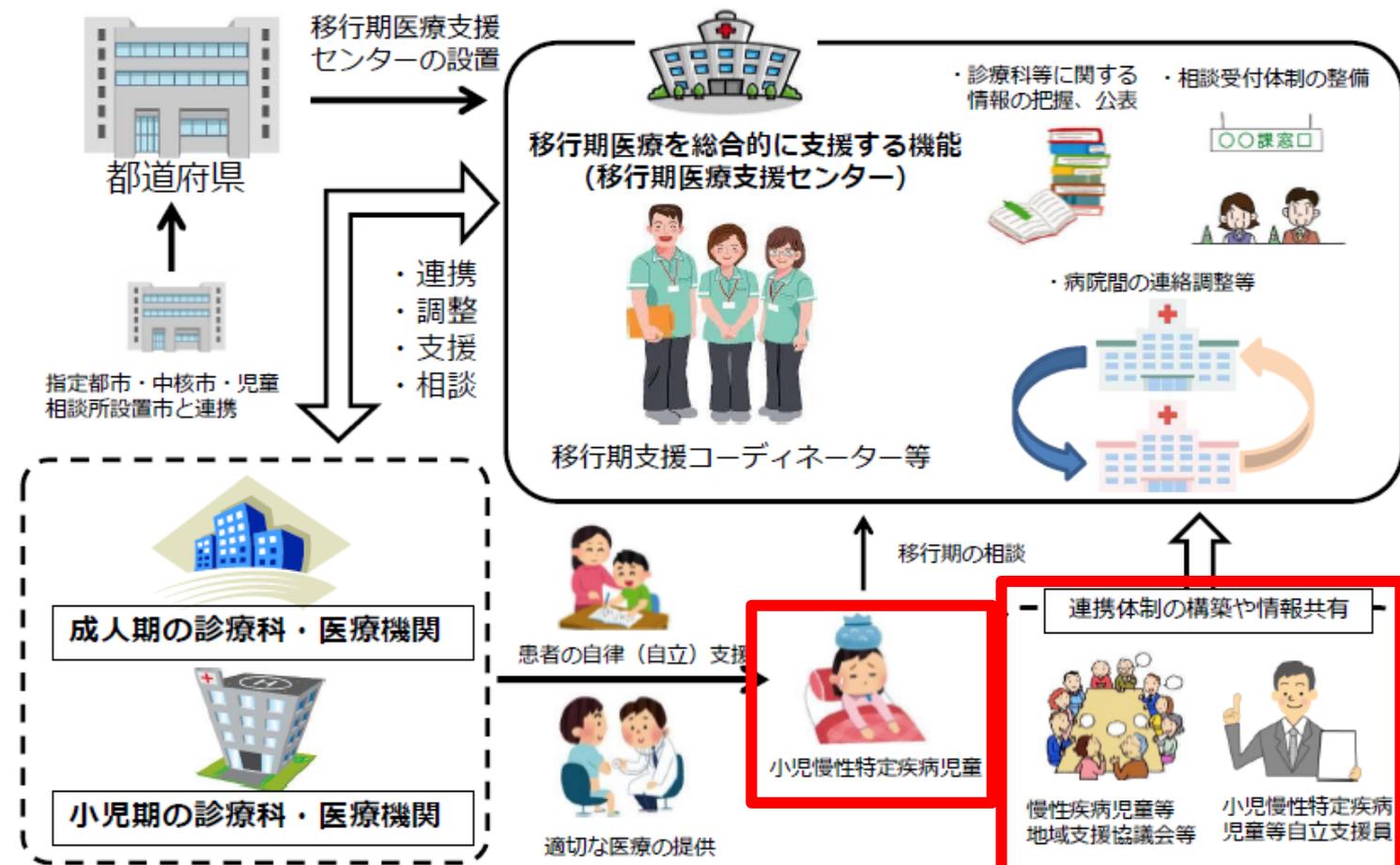
移行期医療支援センター

小児慢性特定疾病児童成人
移行期医療支援モデル事業
(国立成育医療研究センター
—賀藤均)



都道府県における移行期医療支援体制構築のイメージ

○ 都道府県が設置する移行期医療支援センターに配置される移行期支援コーディネーターが、都道府県内の医療提供体制を把握し、成人移行に関する相談支援や医療機関間の連絡調整を行うことにより、小児慢性特定疾病患児等が適切な医療を受けられるよう支援を行う。



移行期医療支援センターの設置状況

	自治体の窓口	設置場所 (業務委託先)	設置診療科 小児/成人	センター長	連携	特徴	特徴
東京都	東京都	東京都立小児総合医療センター	小児期診療科	小児循環器	東京都立多摩総合医療センター	隣接総合病院と連携	成育・大学などと連携
埼玉県	埼玉県	埼玉県立小児医療センター	小児期診療科	代謝内分泌 それぞれの分野	埼玉赤十字病院	隣接総合病院と連携	分野によりばらつき 循環器領域は良好
神奈川県	かながわ県民センター	国立病院機構箱根病院	成人期診療科	神経難病	神奈川難病相談支援センター・県内の病院	難病相談支援センター主導	県内医療機関に移行 医療対応可否調査
千葉県	千葉県	千葉大学医学部附属病院	成人期診療科	神経内科(代謝内分泌・血液)	大学の難病支援関連および県内の病院	大学病院	難病を背景に成人診療科との連携が良好
長野県	長野県	信州大学医学部附属病院	成人期診療科	循環器内科	長野県立こども病院	こども病院と大学病院	子ども病院から出張 子ども病院でも治療
静岡県	静岡県	静岡県立こども病院	小児期診療科	心臓血管外科	静岡県立総合病院 移行期医療部	こども病院と総合病院	子ども病院から出張 移行期医療部がある
大阪府	大阪府	大阪母子医療センター	小児期診療科	小児内分泌	府内の難病医療提供体制病院	こども病院と関連施設	いち早く立ち上げ 協議会

移行期医療支援センター

1. 設置場所

小児病院 vs 大学病院(国立病院機構) = 4 : 3
(小児科側) (成人科側)

2. センター長の専門

循環器 : 内分泌代謝 : 神経 = 3 : 2 : 2

3. 連携先

先ずは特定 : 不特定 = 3 : 4

4. 窓口主体

難病支援相談 ?

今後の計画案

1. 既存の移行期医療支援センターに調査

- 移行医療センターは小児科側と成人診療科側のどちら側に置く方がメリットが大きいと思われるか？
- これまでの移行支援の実績は？
- 現在の主な対象疾患・領域は？他の分野にどう広げていくのか？
- 連携先をある程度施設限定して始める方が良いか？広くどこでも対象にする方が良いか？
- 移行支援コーディネーターと小慢自立支援員との連携はあるか？
- 小慢自立支援事業と連携して欲しい点は？
- 苦勞している点、困っている点は？

2. 各専門分野(サブスペシャリティ)別の移行医療の方針の違い

- 各学会のガイドラインの内容調査
- 各学会移行医療委員会に対するアンケート調査
- 小慢自立支援事業との連携が可能な点



学会について

各種活動

一般の皆様へ

🏠 > [小児血液・がん専門医制度](#) > [委員会一覧](#) > [長期フォローアップ・移行期医療検討委員会](#)

▶ その他の委員会

長期フォローアップ・移行期医療検討委員会

作成日：2015.12.01

作成日：2021.12.21

活動内容

小児・AYA 世代のがんの
長期フォローアップに関する
研修会 (LCAS)

委員会報告

📄 [令和3年度上半期活動報告](#)

📄 [令和2年度活動報告](#)

📄 [令和元年度活動報告](#)

📄 [平成27年度活動報告](#)

📄 [平成26年度活動報告](#)

委員会名

役職

任期

委員名

所属先

委員長

2020/6/28～
2022年定時社員総
会日

大賀 正一

九州大学

副委員長

2020/6/28～
2022年定時社員総
会日

松本 公一

国立成育医療研究センター

委員

2020/6/28～
2022年定時社員総
会日

石田 也寸志

愛媛県立中央病院

2020/6/28～
2022年定時社員総
会日

大植 孝治

兵庫医科大学

2020/6/28～
2022年定時社員総
会日

上別府 圭子

東京大学

2020/6/28～
2022年定時社員総
会日

清谷 知賀子

国立成育医療研究センター

2020/6/28～
2022年定時社員総
会日

竹之内 直子

京都大学

2020/6/28～
2022年定時社員総
会日

長 祐子

北海道大学

2020/6/28～
2022年定時社員総
会日

大園 秀一

久留米大学

2020/6/28～
2022年定時社員総
会日

湯坐 有希

東京都立小児総合医療センター

2020/6/28～
2022年定時社員総
会日

家原 知子

京都府立医科大学

2020/6/28～
2022年定時社員総
会日

宮村 能子

大阪大学

2020/6/28～
2022年定時社員総
会日

檜山 英三

広島大学

オブザーバー

2020/6/28～
2022年定時社員総
会日

前田 美穂

日本医科大学

長期フォローアッ
プ・移行期医療

小児血液・がん学会の目標

1. 特に小児がん領域では、幼少期から多系統にわたる合併症を来すことがあるため、**小児科学会分科会の他の専門学会との連携**を行い、共同して成人領域の移行に向けた提言を行う。（例：日本小児内分泌学会⇒日本内分泌学会）
2. **成人診療を行うカウンターパートとなる学会**と、移行支援に関わる問題点の認識を共有し、協力して**移行期医療を推進**する。学会は複数が想定され、疾患や晩期合併症の内容に即した相応しい学会と**協力関係**を築く。
3. 全国レベルでの移行期医療の推進には**ネットワークづくり**とともに、各地域及び施設において**実行可能なシステム構築、連携の在り方、情報の集約化**を促進する。
4. 小児から成人に至る一貫した医療サービスの提供に関わる**経済的な問題**を明らかにし、行政に適切な支援を求める。
5. 移行支援対象患者の**実態とその問題点を調査して解決策を模索**する。
6. 移行プログラムを成功させるため、関係する**医療者の人材育成**を行う。
(長期フォローアップ・移行期医療委員会)

成人医療移行支援ガイド

小児期発症 血液・腫瘍性疾患患者のための成人医療移行支援ガイド

以下のリンクから「小児期発症 血液・腫瘍疾患患者のための成人医療移行支援ガイド」の内容をPDF形式でダウンロードすることができます。

下記PDFファイル及びその内容につきまして、無断転載、複写、印刷を禁止いたします。

- [1. 移行支援ガイド 基本的姿勢 序文](#)
- [2. 疾患別移行期支援ガイド 小児がん（脳腫瘍除く）](#)
- [3. 疾患別移行期支援ガイド 脳腫瘍](#)
- [4. 疾患別移行期移行支援ガイド 血小板](#)
- [5. 疾患別移行期支援ガイド 血友病](#)



小児がん移行期医療についての現状 ～ JCCCG参加施設アンケート調査～

(原則JCCCG参加1施設あたり1回答者に限らせていただきます)

yaishida2009@gmail.com [アカウントを切り替える](#)

下書きを復元しました

*必須

メールアドレス *

yaishida2009@yahoo.co.jp

パート I / III. 回答者の属性についてお尋ねします

1. 貴院は小児がん拠点病院ですか？ *

小児がん拠点病院である

小児がん拠点病院でない

小児がん—長期FU/移行期医療研修会

現状と課題

- 小児・AYA(Adolescent and Young Adult)世代(思春期世代と若年成人世代)のがんについては、晩期合併症(※)に対処するために適切なタイミングでの告知やアドバイスが重要であること、小児がん患者・小児がん経験者は療養生活を通じた心の問題や就労・自立などの社会的問題を抱えていることから、多職種協働のトータルケアによる長期間のフォローアップが必要になる。
- 現在、全国15か所の小児がん拠点病院に長期フォローアップ外来が設けられているが、その体制は多様であり、対象患者、フォローの頻度、人員、支援内容等にバラツキが見られる。
- このため、「がん対策加速化プラン」(平成27年12月)において、小児がん拠点病院連絡協議会等を活用し、長期フォローアップ体制のあり方を検証することとしている。

※晩期合併症・・・小児がんは、患者が発育途中であることなどから、成長や時間の経過に伴って、がんそのものからの影響や、薬物療法、放射線治療など治療の影響によって生じる合併症がみられる。これを「晩期合併症(晩期障害)」という。晩期合併症は、小児がん特有の現象である。

成長・発達への影響	身長伸び、骨格・筋・軟部組織、知能・認知力、心理的・社会的成熟、性的成熟
生殖機能への影響	妊娠可能か、子孫への影響
臓器機能への影響	心機能、呼吸機能、腎機能、内分泌機能、消化管機能、視力・聴力
二次がん(抗がん剤や放射線治療により別のがんが二次的に発生すること)	良性腫瘍、悪性腫瘍

出典:小児がん情報サービス(国立がん研究センター)



平成28年度

小児がん拠点病院をけん引する小児がん中央機関において、小児がん拠点病院連絡協議会等を活用し、長期フォローアップ体制のあり方を検証するとともに、試行的に研修を実施する。

平成29年度

平成28年度の検証結果も踏まえ、小児がん拠点病院等で長期フォローアップを担当する多職種協働チームを育成するための研修プログラムや教材等を作成し、研修を実施する。
(一般社団法人日本血液・がん学会への委託事業)

2017~2019年まで開催

⇒20-21年度も継続となった

以後は小児がん拠点病院の事業に

拠点病院のみならず、連携病院でも必須になる予定

COVID-19流行のためWeb形式開催

2020/21年度はCOVID-19流行のため、小児がん拠点病院において、講義は全てWeb配信で、グループワークもZoom会議システムで実施。

2020年度：広島、京都、東京

2021年度：北海道、九州、大阪、神奈川

LCAS京都研修会(府立医大)

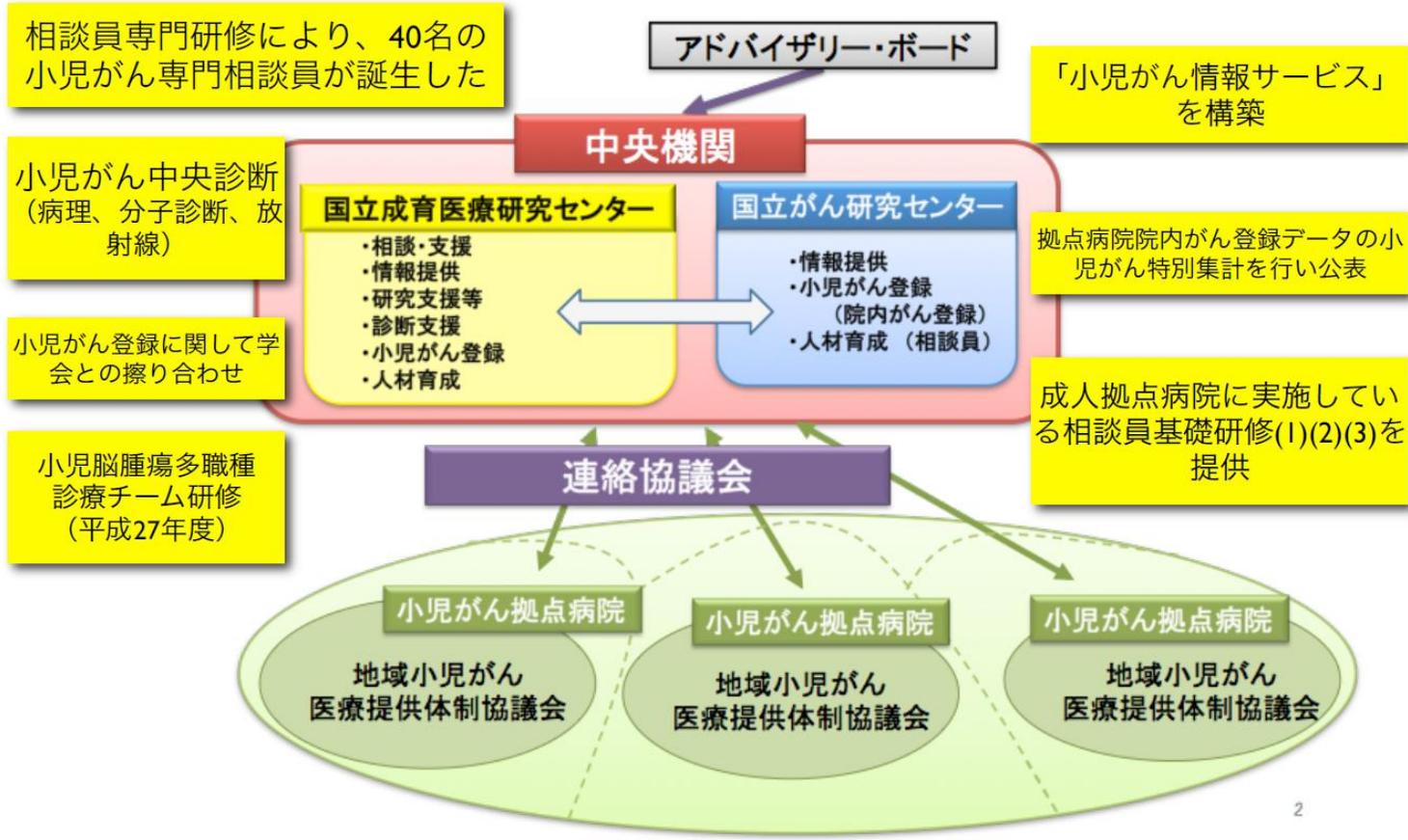
GW1 課題1 (作業終了時間：10時50分)

	晩期合併症	説明・支援	職種
身体面	聴覚障害 腎機能障害・心毒性 人工関節の異常・可動域 妊孕性・月経不順 二次がん、認知機能	説明：化学療法による妊孕性低下の可能性と理解。 薬剤、特にイホスファミドの総投与量。 治療内容と性腺毒性（月経不順）、選択肢 支援：不安は病院を窓口。費用面の説明。	医師・主治医 薬剤師 産婦人科医師
心理面	将来の夢への不安 交際の彼のとの関係性 月経不順 入院環境が孤独	支援：入院環境（気持ちの共有）を整備。 同じような病気を持った患者さんとの関わり（リハビリ時など） 心理士や心理カウンセラーの紹介	看護師 理学・作業療 法士 心理士
社会面	修学や就職の遅れ・困難	説明：自立困難、就労持続が困難。 将来の計画の修正 支援：就職先への説明。	医師 心理士
家族面	精神的な不安 （親・同居）	治療の説明時に家族にも同席してもらう。 説明内容の理解の確認やサポートの共有。 家族会の紹介など	看護師 ソーシャル ワーカー

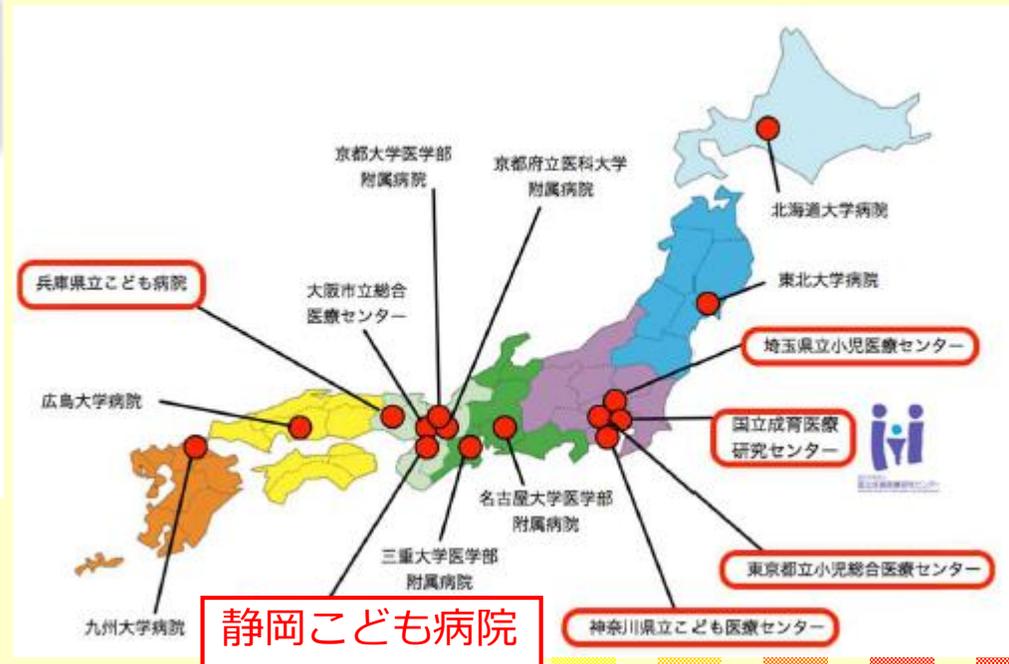


小児がん拠点病院

厚生労働大臣が指定する小児がん中央機関は拠点病院を牽引し、全国の小児がん医療の質を向上させるため、以下の役割を担うものとする。



15歳未満の小児がん患者は年間2000～2500人の発症があり、そのうち約40%をカバーしていると考えられる。



東京都立小児総合医療センター

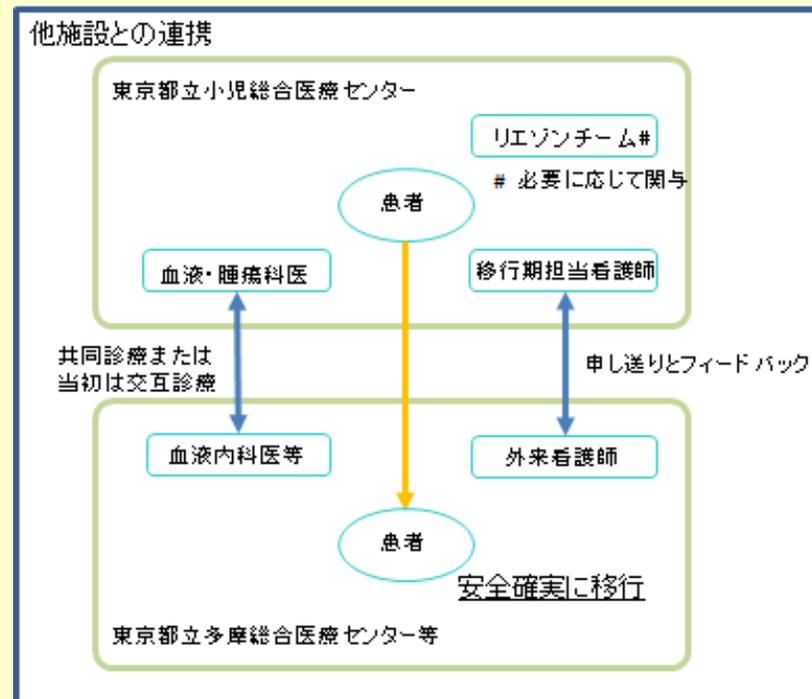
○成人医療への移行

- ・さらに、成人医療への移行を推進する移行外来を**平成25年6月に開設**しました。小児がん患者に限らず**慢性疾患患者を対象とした外来**で、12歳前後から毎年12回移行外来を受診し、成人医療への移行の準備状況（精神的、社会的な準備状況）の評価を行い、20歳までは当センターにて、また20歳以降は成人医療施設への移行を目指しており、平成27年度からは15歳になった時点で移行看護外来について患者および家族に紹介するという取り組みを開始しました。将来的には長期フォローアップ外来に移行期外来の機能を取り込む予定です。
- ・子どもの成長期における晩期合併症については、**内分泌、中枢神経、循環器疾患、性発達、心理的問題などがあり、特に思春期から青年期（AYA世代）に問題**となります。当院は**多診療科、多職種による多面的な診療**を行っております。また、精神科医や心理士、ソーシャルワーカー等による心理社会面のフォローアップも継続して行います。

東京都立小児総合医療センター

○他施設との連携による長期フォローアップの体制

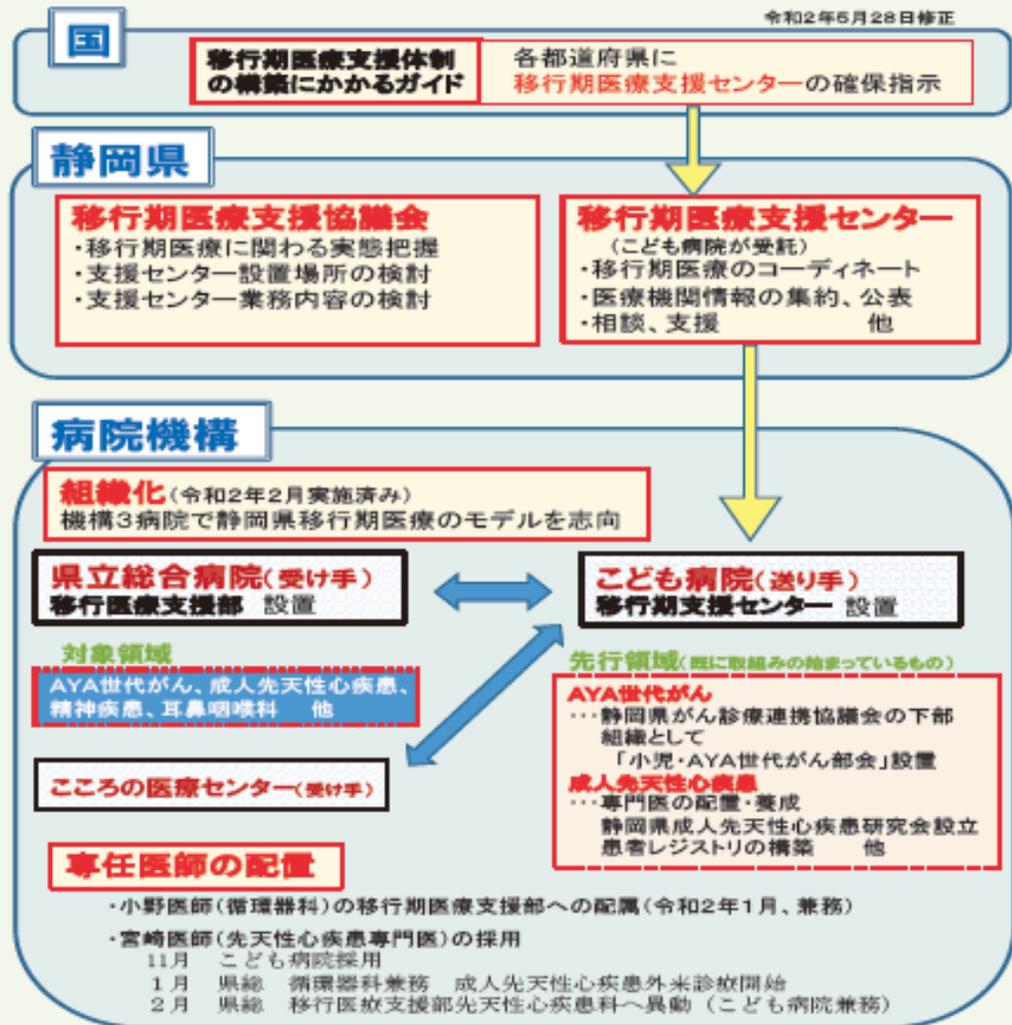
- ・当院は設計段階より隣接する成人医療を行う**東京都立多摩総合医療センターへの移行医療**を推進することを目的としています。
- ・なお、当院は、平成27年度から**小児慢性特定疾病児童成人移行期医療支援モデル事業**にも協力、令和元年度からは**東京都の「AYA世代がん患者等支援事業」のモデル病院**に隣接する東京都立多摩総合医療センターと共に指定され、AYA世代がん診療及び小児がん患者が成人期に達した後の長期フォローアップについて連携体制整備を開始しております。
- ・右記のように移行外来で成人医療への移行準備状況を評価し、成人医療への移行が可能と判断された20歳以降の患者さんは東京都立多摩総合医療センター血液内科等に紹介します。当初は移行をよりスムーズに行うため、当センター血液・腫瘍科医との共同もしくは交互に診療を行い、また外来看護師間での申し送りも重点的に行います。重点医療課題として「キャリアオーバー医療」を掲げ、**「原則として患者が16歳から19歳までの間は共同診療を行い、その後は最適な医療環境を提供する施設に引き継いでいくこと」**を目指しています。全ての医師は小児総合医療センター医師を兼務。総合周産期母子医療センターを一体的に運用するほか、一部の施設設備・機器について共有又は共同利用を行っています。



静岡県移行期医療支援センター

移行期医療に関する全体概念図

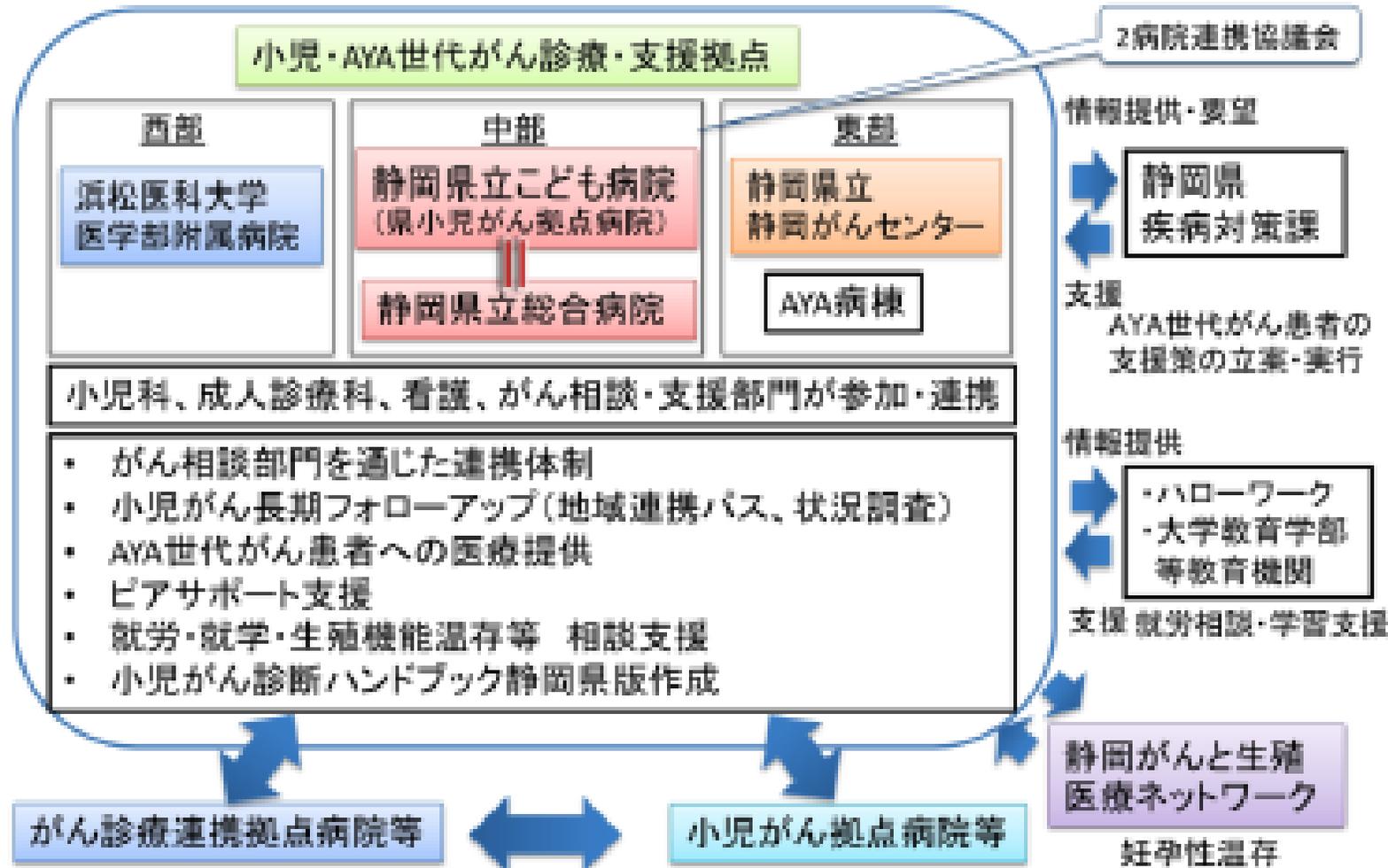
令和2年5月28日修正



2019年度より県健康福祉部とこども病院で移行医療協議会と移行医療センターの設置を検討。総合修練施設である聖隷浜松病院・県立総合病院と連携修練施設の県立こども病院が中心となり、県内約10施設が参加する静岡県ACHD研究会が設立された。また、癌医療推進協議会内に小児・AYA世代部会が設置された。2020年2月に県立病院機構内の県立総合病院(ACHD総合修練施設)に移行期医療部(成人先天性心疾患科、小児・AYA世代腫瘍科、移行医療支援室を含む)とこども病院(ACHD連携修練施設)に移行期医療支援センターを設置。同年4月、こども病院が県から「静岡県移行期医療支援センター」を受託し、県・移行医療協議会を含む移行期医療体制整備の提案・推進役となる。同年6月移行医療コーディネーターを選定。今週秋～冬に県・移行医療協議会を開催予定。

静岡こども病院

静岡県がん診療連携協議会 小児・AYA世代がん部会



みんなの健康管理サイト

公益財団法人 がんの子どもを守る会

小児・AYA世代がん経験者みんなの健康管理サイト

A health management site for childhood, adolescents and young adults cancer survivors



Your health is
in your own hands.

あなたの健康は、
あなた自身の手の中に。

みんなで作る
小児がん経験者の健康ネットワーク



まずはこちら！



Health check!

あなたの健康管理法を確認！



Checkする！ ➔

みんなの健康管理サイト

講演録・講演動画

● 2021年6月6日（日）「小児がん経験者の健康管理」 講演録（「のぞみ」206号該当ページPDF）

講演動画

- ① [総論](#)
- ② [小児がん経験者の健康管理の基本](#)
- ③ [各論（小児がん治療後の晩期合併症－内分泌・性腺・神経・心血管代謝－）](#)
- ④ [各論（小児がん治療後の晩期合併症－歯口腔・骨・腎・聴覚・呼吸器－）](#)
- ⑤ [各論（小児がん治療後の晩期合併症－心理社会・造血細胞移植－）](#)
- ⑥ [各論（小児がん経験者の二次がん－がん検診で注意すべきこと－）](#)
- ⑦ [長期フォローアップツール](#)
- ⑧ [成人医療移行](#)
- ⑨ [全編](#)
- ⑩ [小児がん経験者の健康管理（PDF）](#)

まとめ

- 成人医療移行は、小児慢性疾病児童の社会性の獲得と自立に関連が深い
- 自立支援事業と移行医療支援事業との連携は極めて重要
- 移行医療支援センターの今後の展開
 - 小児医療専門分野の特性・地域の広がり均てん化
- 各サブスペシャリティ学会での取り組みやガイドライン
- 小児がんの分野
 - AYA世代がん支援、患者家族団体、ピアサポート